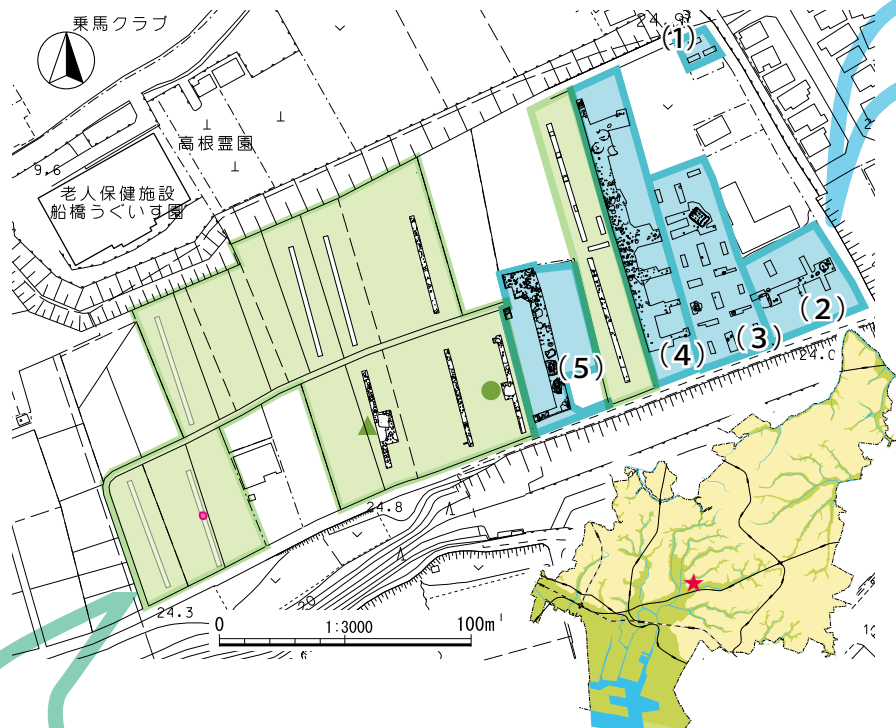


とりかけにしかいづか

取掛西貝塚 (6) 遺跡見学会

平成 29 年 8 月 26 日 (土) (雨天の場合 9 月 2 日)

取掛西貝塚は船橋市の中央部、飯山満町から米ヶ崎町の台地上に位置する縄文時代早期 (約 1 万年前) と前期 (約 6 千年前) の遺跡です。これまでに行われた調査で縄文時代早期の貝層や竪穴住居跡などが見つかり、ヤマトシジミを主体とした貝層は東京湾東岸部で最も古いものです。船橋市では現在、取掛西貝塚の国史跡指定を目指し、遺跡の内容や範囲を確認するための調査を行っています。



今年度の調査成果

取掛西貝塚の今年度の調査は、昨年度行った分布調査 (畑に落ちている土器や石器を拾い集める調査) の結果を参考にトレンチを設定して調査を行いました。調査はまだ半ばといったところですが、いくつかの発見がありました。

縄文時代早期の集落の広がり



今回の調査では現在までに 11 軒の竪穴住居跡が確認され、台地上の集落の広がりが徐々にわかってきました。縄文時代早期の集落の中では大規模なものになりそうです。

貝層のある住居の発見



取掛西貝塚 (5) 調査の西側で貝層のある竪穴住居跡を確認しました。貝 (ヤマトシジミ) と灰や焼土が混じった貝層から動物の骨が出土しました。



これまでの調査成果

取掛西貝塚ではこれまでに 5 回の開発に伴う発掘調査を行い、縄文時代早期・前期の遺跡であることがわかりました。特に取掛西貝塚 (5) 調査では重要な発見がありました。

東京湾東岸部で最も古い貝層



出土した縄文土器から約 1 万年前という年代が判明した取掛西貝塚の貝層は、市内の他の貝塚が海水域の貝を主体としていることと大きく異なり、ヤマトシジミという汽水域 (河口付近の海水と淡水が混じる水域) に生息する貝が主体でした。これは貝塚が形成された時期の環境を考える上で貴重な資料となります。また、この貝層の一部を剥ぎ取ったものを飛ノ台史跡公園博物館に展示しています。

頭骨を並べた日本最古級の動物儀礼

貝層を掘り下げていくとその下から、イノシシやシカの頭の骨が並べられた状態で出土しました。これは動物儀礼の跡とみられ、全国で最古級のものでした。

また貝層中には、様々な魚骨や獣骨、鳥骨、そして植物の炭化したタネが含まれており、豊かな自然に育まれた生活が復元出来ます。



豊富な骨角製品



貝層中からは骨や鹿の角、貝を人の手によって加工したものも出土しました。骨を加工した針やサメの歯を加工した飾りなどが出土し、中でもツノガイを丁寧に磨いてビーズ状に加工した飾りからは、縄文人の優れた加工技術がうかがえます。

遺跡の内容や範囲を探る調査は今年度を含めて 3 年間の予定で実施いたします。今年度の調査は 9 月まで行う予定です。調査成果の詳細は飛ノ台史跡公園博物館主催の縄文大学 (10/25、11/1、11/8) などでも報告する予定です。

取掛西貝塚をはじめとした最新の遺跡の情報は文化課 Facebook でも発信しております。掲載データは 8/24 現在のものです、変更になる場合もあります。

船橋市教育委員会 生涯学習部 文化課・埋蔵文化財調査事務所

